

小宮一仁 (1961-) は、日本の工学者。千葉工業大学第 12 代学長。学位は工学士、工学修士、博士 (工学)。東京都に生まれる⁽¹⁾。幼少期は板橋区常盤台の曾祖父・祖父の家で育つ⁽²⁾が、重い小児喘息の治療のため医師である叔父⁽³⁾から空気の澄んだ土地への転居を勧められ両親と埼玉県川越に移る。小宮は医学者でもあったこの叔父の影響を受け子供の頃から医師になりたいと思うようになった⁽⁴⁾。埼玉県立川越高等学校を卒業。中学・高校の同期には岡山大学教授の荻野勝、筑波大学教授の岩室憲幸、御茶の水美術学院理事の東森香織が、高校の同期には現所沢市長の藤本正人、現衆議院議員の塩川鉄矢、北海道大学医学部教授の齊藤卓弥がいる。叔父の出身大学医学部を受験し卒業後 3 年間浪人⁽⁵⁾するが合格かなわず早稲田大学理工学部土木工学科に入学した⁽⁶⁾。1987 年 3 月早稲田大学を卒業し同大学大学院修士課程、博士後期課程⁽⁷⁾に進学、博士 (工学・早稲田大学) の学位を取得した。早稲田大学助手を務めた後、1994 年 4 月助手として千葉工業大学に着任、1996 年 4 月専任講師になった。1998 年 4 月助教授昇進直後に千葉工業大学を退職、求めに応じてケンブリッジ大学工学部に専任教員として赴任した[1]。ダーウィンカレッジに所属[2]。在英中は研究・学生指導の他、招聘されて欧州委員会の大規模プロジェクトに参画、欧州諸国を奔走した[1]。2001 年 4 月千葉工業大学教授、2012 年 6 月 29 日学長に就任した。1999 年からケンブリッジ大学協会の終身会員。

欧州理事会「Construction Research, Development and Innovation Project」招聘研究者 (1998 年～1999 年)、欧州委員会「Brite Euram III Program」専門委員 (1998 年～2000 年)、国土交通省「大深度地下における環境に関する検討調査委員会」委員 (2002 年～2004 年)、独立行政法人日本学術振興会「科学研究費委員会」専門委員 (2008 年～2009 年、2011 年)、人事院「国家公務員採用 I 種試験」試験専門委員 (2010 年～2013 年)、公益社団法人地盤工学会理事 (2011 年～2013 年)、同「地盤工学会誌編集委員会」委員長 (2012 年～2013 年)、関東工学教育協会会長 (2016 年～2017 年)、公益社団法人私立大学情報教育協会常務理事 (2017 年～) 他を歴任している。

著書

共著

- ・「土質力学」⁽⁸⁾、彰国社、2000 年 (2014 年第 5 版増刷)
- ・「性能設計地盤工学」、山海堂、2007 年
- ・「地盤工学における性能設計」⁽⁹⁾、丸善、2010 年

編著

- ・「Underground Construction Technology in Japan (英書)、丸善、2006 年
- ・「薬液注入工法の理論・設計・施工」、地盤工学会、2009 年
- ・「目から鱗のトンネル技術史」、土木学会、2009 年
- ・「Recent Developments of Geotechnical Engineering」(英書)、地盤工学会・中国土木学会、2010 年

分担執筆

- ・「実験力学ハンドブック」、朝倉書店、2008 年
- ・「近接施工」、地盤工学会、2011 年
- ・「よくわかる実験技術・学術用語」第 2 版、日本実験力学会、2012 年

脚注

- (1)父はシーライン東京社長、日本バス協会理事長、東京都理事などを歴任した。
- (2)1945 年の東京大空襲で父の家 (4 月 13 日) も母の家 (3 月 10 日) も焼失している。小宮は祖父母や両親らから戦争中や戦後の食糧難の時代の体験談をよく聞いた。
- (3)叔父はテレビドラマ化[3]された小説「幸子ーその愛と死」[4]の作者で医学博士の関口豊三。
- (4)幼稚園の卒園文集、小学校、中学校の卒業文集に将来医師になりたいと書いている。
- (5)大学浪人最初の年に高熱が続きマラリアの疑いがあると診断され感染病棟に隔離され入院する。各種の検査・検診を受けるも病原菌が見つからず、感染病棟を出ることを許されなかったためこの年の入学試験を受けられなかった。その後破傷風菌の一種が見つかり感染病棟を出た。
- (6)長い大学浪人を経たため卒業後公務員以外への就職が難しいと考えた父の助言を聞いて土木工学科を選んだ。
- (7)博士後期課程への進学にあたっては、叔父関口と当時筑波大教授だった従叔父の田淵武士 (メチルクエン酸回路の発見者。筑波大学名誉教授) の勧めがあった。

- (8)東京工業大学名誉教授の太田秀樹は「土の弾塑性構成則であるオリジナル・カムクレイ・モデルについて、国内外の教科書の中で本書の導出方法が最も優れている。」としている[5]。
- (9)韓国の大学教授らが翻訳した韓国語版が2015年に韓国で出版された。

出典

- [1]稲土会報、No.3、p.2、2002年
- [2]実験力学学会誌、Vol.1、No.4、p.213、2001年
- [3]幸子とともに、JNN系列でゴールデンタイムに放送、1969年
- [4]主婦の友新書、1964年
- [5]地盤工学会関東支部発表会発表講演集、pp.455-460、2007年